

今年は、桜の開花が例年よりも早く、もうすでに春爛漫の時季となっております。本日は、兵庫県立尼崎西高等学校 第五十九回入学式の挙行にあたり、ご来賓のPTA会長様、並びに保護者・ご家族の皆様のご臨席を賜りまして、誠にありがとうございます。心より御礼申し上げます。

また、本日は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、ご来賓の人数並びに保護者のご参列の人数に制限を加えましたこと、大変心苦しく思っております。諸般の事情をお察しの上、何卒ご容赦いただきますようお願いいたします。

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。職員一同心より歓迎いたします。

本校は、開校以来、「法（のり）を敬う」「事を正しくする」「友情を厚くする」という校訓のもと、学業のみならず、部活動や防災・ボランティア活動、その他さまざまな教育活動に、生徒・職員が一丸となって取り組んでいます。

さて、昨年度は、コロナ禍のために、学校における多くの教育活動が大きく制限されました。中学校三年生であった皆さんは、義務教育最後の年に、それぞれがさまざまな思いを胸に頑張っていたと思います。しかしながら、約三ヶ月に及ぶ臨時休校で授業ができなくなり、そのあおりで夏休みが大変短くなったりしました。また、最大の行事の一つである修学旅行や部活動の最後の大会・コンクール等が中止となりました。また、最大の行事の一つである修学旅行や部活動の最後も、今、この場に少なからずいるのではないかと思います。

そんな皆さんに、日本を代表する企業の、現在名誉会長をされている稲森和夫さんという方が講演会等で語っておられる言葉を紹介したいと思います。

「災難や苦難に遭ったら、嘆かず、腐らず、恨まず、愚痴をこぼさず、ひたすら前向きに明るく努力を続けていく。これから将来、よいことが起きるために

この苦難があるのだと耐え、与えられた苦難に感謝すること。

よいことが起きれば、おごらず、偉ぶらず、謙虚さを失わず、自分がこんな

よい機会に恵まれていいのだろうか、自分にはもったいないことだと感謝する。」

かく言う私も、稲森さんがおっしゃっているような境地にはなかなかたどり着けてはいませんが、これらの言葉を心に留めて、これからも精進していかなければ、と思っております。

さて、コロナ禍はいましばらく続きます。また、それを除いても、新しい環境で、中学校までとは比べものにならないくらい多種多様な生徒が集まっている中で、これから実社会に出ていくためのさまざまな経験を積んで行く皆さんにとって、尼崎西高校は数多くの機会を設けています。ぜひ、失敗を恐れず、チャレンジしていただく下さい。

最後になりましたが、保護者・ご家族の皆様、お子様のご入学、誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。職員一同、全力で教育活動に邁進する所存ですが、子どもたちの健やかな成長のためにはご家庭との連携が必要不可欠と考えております。我々職員と皆様方が子どもたちの成長を心から願う同志として、協力し合う関係を構築していきたいと願っております。今後とも一層のご支援、ご協力を賜りますことを祈念しまして式辞とします。

令和三年四月八日